

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室、入試部
大項目	5 学生の受け入れ 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。【担当部局：学長室】	
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針	
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。【担当部局：入試部】	
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。【担当部局：学長室】	
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。【入試部】	
要素		

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 入学定員に占める一般選抜入学試験の入学者と各種入試の入学者の比率を各学部において6対4とする。	→各学部において一般選抜入試：各種入試＝60：40を達成すること	B
2. 入学試験成績開示について、不合格者で請求があった者に対して実施する	→不合格となり成績開示要求を行った者への開示数	A
3. スポーツ能力に優れた者を対象とする入学試験を全学部で実施すること	→スポーツ能力に優れた者を対象とする入学試験を全学部で実施すること	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目5.0.1	(方針) 入試形態毎に求める学生像を入試要項等に明示する。 (現状説明) 新基本構想においても、本学のめざす人間像を明示している。入試形態ごとに求める人材を入試要項に記載している。修得しておくべき知識等の内容・水準は現状で入学前段階では明示されていない。障がいのある学生の受け入れについては、大学入試センター試験の受け入れ方針を準拠している。個別明示することは困難であるので、相談窓口を明示している。
☆	小項目5.0.2	(現状説明) 学生募集にあたっては、大学案内や入試ガイド、ホームページなどの媒体を利用して広く告知を行うとともに、入学試験要項において選抜方法を明記している。また、入学者選抜を適切に行うため、入学試験問題の検証を外部機関に委託している。さらに、入学者選抜において透明性を確保するために、入学試験結果を公表するとともに、入学試験問題集を発行して解答、正答率などを公開しているほか、一般入試不合格者を対象として入学試験成績を開示している。
☆	小項目5.0.3	(現状説明) 社会情勢、本学の情勢を適宜把握し、定員の設定を行っている。春学期、秋学期にそれぞれ全学的な現員の調査を行っている。残留生の個別指導を行えるよう、総合的支援策を立案する体制を構築する。
☆	小項目5.0.4	(現状説明) 学生募集および入学者選抜において、学生の受け入れ方針に基づき入学試験制度毎にその趣旨に見合った人材が確保できているかを評価するために、2009年度より追跡調査システムを構築した。2010年度より入試委員会のもとに入学者追跡調査・入学試験制度評価ワーキンググループが構成され追跡調査を実施することとなる。
☆	その他	

《特定6項目データ》

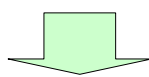
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【全学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	63.4%	63.1%	58.0%	59.8%	51.9%	一般入試入学数÷入学者数 (一般入試にセンター入試を含む)
表	入試形態別入学者数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
指標2	志願者総数	人	47,422	51,458	52,526	55,345	54,323	
指標3	志願者倍率	倍	11.2	12.1	11.9	10.7	10.0	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	%	73.6%	73.6%	74.2%	73.6%	74.3%	近畿圏出身入学数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



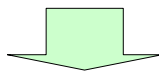
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	退学者、残留生の個々人の理由を的確に把握し、施策を決定する。
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価(2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	個々人の事案に即した施策は策定が困難であるが、集合体ごとの傾向を分析し、施策を策定する。
小項目5.0.4	追跡調査システムの構築にあたっては予算削減措置が採られたため、全学年分のデータを網羅することができていないが十分な予算が充てられるようにしたい。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	総合的支援のための検討体制を早急に構築する。
小項目5.0.4	可及的速やかに、全学年分のデータを網羅することができていないが十分な予算が充てられるようにしたい。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 一般入試入学者比率が2010年度入試で51.9%に大きく低下しています。大学基礎データ表15によると、5割を切っていて特に低い学部が国際学部26.9%、人間福祉学部43.7%、商学部46.3%、理工学部49.1%ですが、その意味合いと対策について検討することが求められます。
- 志願者倍率が2010年度10.0倍ですが、近年漸減傾向にあります。学部の競争力低下という視点で、その背景要因を精査することが求められます。
- 入学試験成績開示はA評価ですが、実績が不明です。
- 一芸一能入試(スポーツ推薦入試)
大学基礎データ表13によると、一芸一能入試(スポーツ推薦入試)が実施されていないのは法学部だけですが、なぜC評価なのでしょう。

【学内委員】

- 適切に進捗状況が説明されていることは評価されます。目標は、具体的に述べられていますが、既に達成されたものについては、新たな目標を設定することが期待されます。
- 自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。
- 小項目5.0.1の現状説明において、(方針)として「入試要項等に明示する」とありますが、ここは受け入れ方針そのものを記載してください。また、各学部の受け入れ方針は持っていること、どこを見ればわかるのか明示してください。
- 明示については、現在はホームページでの明示が重要です。このことも含めてお考えください。また、入試要項だけでなく、入試ガイドへの明示も必要です。入試ガイドにはAO入試のアドミッション・ポリシーは記載されていますが、学部のアドミッション・ポリシーは記載されていないようです。
- 受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)はどのようなものとするのか、現在のものでも十分なのか、絶えず議論が必要でしょう。現在明示されていない「修得しておくべき知識等の内容・水準」など、検討課題があると考えられます。
- 障がいのある学生の受け入れは、先駆的な関西学院として、重要な方針です。簡潔に方針を記述してください。
- 「学生の受け入れ方針については、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」に留意し、遺漏のないよう対応されたい。
- 外部機関による入学試験問題の検証は難しい問題もあるでしょうが、重要なことだと思います。
- 《小項目ごとの現状説明》の小項目5.0.3では現員の調査を行っているとのことですが、その結果の考察を記すことが期待されます。また、アドミッション・ポリシーに関し今一度悉皆的にレベルが揃っているか、必要な情報が公表されているかの調査をお願いします。
- 小項目5.0.3については、現状はどうであるのかの記述が必要です。そしてそれに対してどう対応するのかが重要です。
- 「飛び入学」についてはどうなったのか説明をお願いします。
- 特定6項目データを明示しています。この説明を簡潔にすることで現状説明も有効なものとなります。
- 追跡調査は長年の課題であり、その分析、結果、対策に期待します。
- 目標の現状や達成状況についての説明を現状説明で触れてください。それぞれの小項目で説明が可能で、現状説明がより一層わかりやすいものとなります。
- 目標2の「指標」は、開示数ではなく、開示の実施の有無が適当でしょう。「指標」を開示数とするなら、「開示制度の周知」が「目標」となるのでしょうか。再検討されてもいいと思います。
- 効果が上がっている項目、改善すべき項目、小項目5.0.3は何についてのことか説明が不十分です。
- 「改善すべき事項」の「次年度に向けた方策」、小項目5.0.4「～望ましい」というのではなく、当該部署がどう対応していくのかをお書きください。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ (現状説明) 5.0.3に次の記述を加える。「また4月学部長会において、定員超過・定員割れ一覧表を示し、該当学部に注意喚起を行い適切な施策をとるようにしている。」

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保－入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>
